

# 地域医療連携室だより

拝啓 向夏の候、皆様におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
猛威を振るったコロナ第4派もようやく落ち着きを取り戻し、今年度から地域医療支援病院として本格的な活動を開始するとともに、より一層地域医療連携向上に努めていく所存です。  
さて今月号は、当センターでの活動やうれしいお知らせなどの Topics、はびきのチャンネルのご案内、皮膚科の診療科紹介をさせていただきます。



1

## 移行期医療への取り組み！

当センター小児科 主任部長 亀田先生を座長に、移行期医療における現状と課題について、小児科医 吉田先生、アレルギー内科医 松野先生、小児科病棟 関田看護師長の計4名でセッションしました。

医療の進歩により小児期発症慢性疾患患者の多くが、思春期・成人期を迎えるようになりました。“こども”から“大人”へと自立していく患者が、適切な医療を生涯に渡り受けられるように、小児診療科から成人診療科へとシームレスに繋げていくことを、移行期医療といいます。

当センターでは、小児喘息など小児の医療から成人の医療へ、スムーズな移行を目指していくうえで、このような教育セミナーにおいて、同一施設からそれぞれの立場で話しをさせていただき、貴重な機会となりました。今後も、アレルギー疾患の拠点病院として、アレルギー疾患に関する適切な情報を提供し、啓発活動を行ってまいりますので、ご協力よろしくお願いいたします。



〈教育セミナーポスター〉



〈左から 亀田部長、松野先生、関田看護師長、吉田先生〉



〈セッションの様子〉

西川百合子元副看護部長が、令和3年春の瑞宝単光章を受賞されました。

西川元副看護部長は、強い責任感とバイタリティあふれる行動力で、看護の質向上と病院改革に尽力されました。在職中は呼吸器看護のエキスパートとして、病棟・外来において積極的に実績を積み、地域医療連携業務にも携わっていただきました。

### 【ご本人のコメント】

このような受章をいただきありがとうございます。

私は昭和56年に大阪はびきの医療センターに入職し、当時はこれほど長く仕事を続けるとは思っていませんでした。何度か仕事をやめようと思ったことがありましたが、そのたびに職場の支援や家族の理解に助けられ仕事を続けることができました。

呼吸器疾患については急性期から慢性期、退院支援、在宅連携と多くのことを学ばせてもらい、キャリアを積むことができました。ここでの経験はかけがえ

のないものであり、長く勤められたのは皆様の支援の賜物と感謝しかありません。本当にありがとうございます。まもなく新病院が建ちます。地域の皆さまから信頼され期待される病院となることを心より願っています。



## 7月 はびきのチャンネルのご案内



### “大阪はびきの医療センター泌尿器科の紹介と前立腺がんについて”

7月15日（木）14:00～15:00

泌尿器科 福井 辰成 先生



\* 詳細および申し込み方法は同封しておりますチラシをご参照ください。

\* 今までののはびきのチャンネルの動画をアーカイブとしてご覧いただけます。（登録医限定）  
詳細は、地域医療連携室までお問い合わせください。



## 皮膚科 vol.1

★当科は重症薬疹診療拠点病院（日本皮膚アレルギー免疫学会認定）です。

アレルギー診療において、皮膚科は、様々な領域をカバーしています。アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触皮膚炎などの皮膚を舞台としたアレルギー性皮膚疾患、食物アレルギー（当院では小児の食物アレルギーは小児科、成人の食物アレルギーは皮膚科が担当しています。）はもちろんですが、もう一つ重要な領域は薬剤アレルギー、薬疹です。薬疹の中でも全身症状をとまなう重症薬疹は、過剰な免疫反応によって誘発され、薬剤の中止だけでは改善せず、進行性となることが多いので早期診断、初期の集中した治療による対応が求められます。代表的な重症薬疹は次の3つです。



1. TEN（中毒性表皮壊死症）- スチーブンスジョンソン症候群：皮膚・粘膜の障害が強く、重症例では全身熱傷様になり、生命に関わることもあります。ステロイドパルス、血漿交換、免疫グロブリン大量療法等の集中した治療を行います。
2. DIHS（薬剤過敏症症候群）：薬剤開始直後ではなく数週間で発症し、薬剤中止後も進行し諸臓器の障害を併発することがあります。HHV6 ウイルスの再活性化によっておきる後続の免疫異常は自己免疫疾患を誘発することもあり、早期の改善に加え、長期管理を要します。
3. AGEP（急性汎発性発疹性膿疱症）：紅斑と小膿疱の急性発症が全身に起こります。

これら3型はそれぞれ病態は異なるものの、いずれも、初期には発熱を伴うことが多く、感染症と混同されることも少なくありません。早期診断、専門的知識に基づく計画的な治療が必要です。当院では、集中治療部等の他科とも連携して、重症薬疹診療拠点病院として診療を行っています。

★はびきのD（Derma）チャンネル始めました。

いつも当科への御紹介ありがとうございます。当院皮膚科はアレルギー疾患だけでなく、感染症、皮膚腫瘍、熱傷、皮膚潰瘍等々、すべての重症・難治性皮膚疾患に対応しています。皮膚疾患はプライマリケアでお世話になることも多く、皮膚科専門医の少ない南河内地域の実情を考え、御紹介いただいた症例の報告会をかねたりモート勉強会を定期開催（奇数月の最終木曜）しています。第1回5月27日多数のご参加ありがとうございました。

第2回は7月29日です。該当症例の御紹介元施設には事前にご案内いたします。それ以外の御施設の先生方もお気軽にご参加ください。

大阪はびきの医療センター 地域医療連携室

直通：072-957-8030 代表：072-957-2121  
FAX：072-957-8051

地域連携室室長：川島 佳代子  
マネージャー：秦 順子